

充実した第37回 IFA展に

会長 福岡 茂

台湾女性写真家の特別作品

台湾政府直属の亜東関係協会、台日文化経済協会から毎年表彰盾を、IFAの優秀な作家に贈られます。IFAは美術団体でも国際的視野で活躍する稀有な存在であり、名誉です。

今年は台湾外交部の協力を得て台湾女性写真家の作品も出展して頂き、オープニングの際は台湾総領事蔡所長、大阪市会議長の東氏など要人の参加で従来にはない賑やかな幕開けになりました。

4部門総計で約200点の出品で非常に充実感があり、書道、写真部門は別項で詳しく説明します。

蘇った絵画部門

日本開催のオリンピック・エンブレムのデザイン問題が浮上し、連日マスコミのテーマとして世論を沸かせました。戦後70年私たちは生活の衣食住の根源的な問題を克服し、一部の専門家だけの世界であったデザインも大衆的議論を論じあえる時代になり、美意識の普遍化が進み、私たちにほんとうに必要なのは何かを問われる時代になりました。

そして、今回会場で最初に感じましたのは、素晴らしい若いエネルギーであり、同時に高齢化した今の世にサムエル・ウルマンの詩に「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」その詩を思い出しました。絵画部門受賞作品、堀正幸氏の受賞理由はまさにこの詩のごとく若さです。水滸伝「ねぶた祭り」をテーマに、豊かな時の流れと青森の場の経験をエネルギーに置換え、100号の油彩で完結させました。

佐藤一正氏のIFA賞は、暦年の受賞作品事例とは異なる傑出した作品です。日本の洋画歴は、欧州の影響が強いのですが、100年前のアメリカの天才画家アンドリュウ・ワイエスを彷彿させました。具体的にはこの作品をもっと読みたくなる、もっとこの絵に入りたくなる。同様に長田正明氏の「校門の猫」なぜ、そこに猫がいるのか？楽しさを教えられました。美術の世界も、基礎的技術の習得が表現したい作品のためにも不可欠です。そしてただ美しいだけの絵は幾らでもあります。テーマとなぜ？を絵で表現してください。

ステンドグラスは光の芸術

室内を飾るランプ、ステンドグラスの作品について、特選の「豊饒の祈り」吉ヶ江真貴子氏の作品、透過光の演出で本来の美しさを見たかった。著名な村岡靖泰氏の指導で、専門技術習得に相当な時間を費やしたと思います。岡山正都、日野喜美、永野那津子各氏の作品の評価も高く、ますますの研鑽を期待しています。

ステンドグラスは光の芸術ですので、展示の演出が

必要です。痛感しています。

末筆になりますが、見習うべき作風の川口紘平氏、柳沢浩幸氏に特別出品して頂き有難うございました。各部門の講評は専門委員にお願いしていますが、今年も事務局西谷素子、浅尾敬子、三谷てる子各位にたいへんお世話になりました。なお、来年春季展が西宮北口に決定したと報告を受けています。



赤い浅間
福岡 茂



on the earth
佐藤 一正



校門の猫
長田 正明

みなさん、いつも大変お世話になります！
書道部門のことではありませんが、今年の IFA 展においてとても印象に残ったことがありました。それは、台湾の女流写真作家展が IFA 展秋の本展で合同開催されるに至ったことです。2015 年 8 月 25 日(火)IFA 展開催初日に、台北駐大阪経済文化辦事處の蔡明輝處長(総領事)が、大阪市立美術館の会場にお越しになり、女流写真作家展の開会式が行われました。巡回展の一つとしてこの IFA 展の会場が選ばれたことは、今までにない企画であり、たいへん光栄なことだと思いました。IFA 事務局と台湾総領事館事務局の皆様に、心から感謝を申し上げます。IFA 国際美術協会の名前にふさわしい企画であり、できましたら来年以降も蔡総領事と連携していただき、台湾との大切な文化交流として、継続して企画展示されることを、心から期待してやみません。
本題に入ります。今夏の書道部門は、出品者数が過去最高の 37 名となり、作品点数も過去最高の 51 点(日本 41 点+台湾 10 点)となりました。今年から新たにご出品いただいた方は 7 名にものぼり、東京の南房泰碩先生、谷政憲先生、知久芳碩先生のご指導並びに、ご支援によるところでありまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます！

台湾からの書道作品も 10 点、今年も友情の証としてご出品いただきました。台湾の書道家との文化交流は、今年でちょうど 10 周年という記念すべき年でもありました。我々は、次の 10 年を目指し書道部門一丸となって、漢字文化という両国の共通の文化を通して、民間レベルでの草の根の交流を続け、人と人を結び付け、友情を保ち、育て、深めていきたいと決意しています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

書道部門の展示コーナーとして、奥の広い展示エリアを今年も使わせていただくことができました。ご来場の皆様から「このエリアは、書に囲まれた、別世界のようなですね〜！」と感嘆のお声をたくさん頂きました。この感覚は、登山とよく似ているのかもしれない。アルプスなど登山する時は、自宅から遠く離れた山を目指し、時間をかけて移動しますが、山の中は街にはない非日常性があり、四方八方を大自然に囲まれ、えもいわれぬ感動に包まれます。美術館の中でも四方八方を書に囲まれることによって同質の感動を呼び起こすのかもしれない。
来年以降の IFA 書道部門の作家個々人と部門としての成長と発展のために、次の 5 点の命題にチャレンジしていきたいと思っています。

- 1、書道技術のレベルアップと人間性の鍛錬。
- 2、進取の気性に飛んだ作品制作への取り組み。
- 3、若手人材の結集と教育。
- 4、漢字文化圏の書道作家との絆を深めていく。
- 5、世界の多様な calligraphy との絆を創り出す。

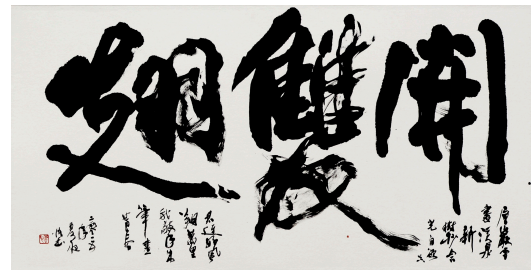
みなさま、今後とも書道部門に対しまして、引き続きましてご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



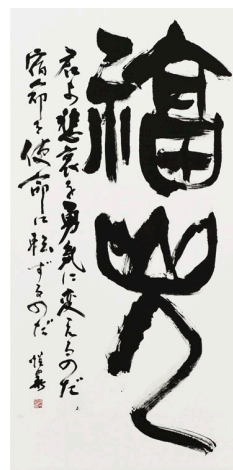
美月
金原 芳山



常楽我浄
知久 芳碩



雙翅を開く
吉田 悟



福光
鈴木 惺華



白石道人詩
廖 明亮

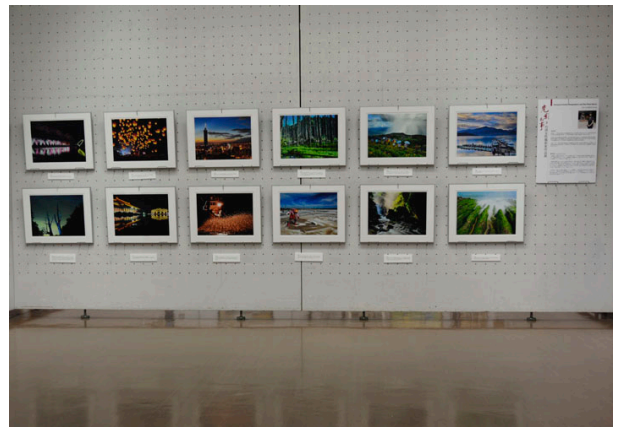
このたび、「2015 年 IFA 展」において、「台湾女性写真家展～光と影による物語」を特別出展させていただき大きな収穫を得ました。

台湾で活躍する汪曉青女士、簡扶育女士、張秀鳳女士、張詠捷女士 4 人の女性写真家の作品を吟味し、あわせて 30 点を展示しました。母親という立場を物語ったり、女性の開花した才能を記録した独創性に富む作品や、また、女性ならではの繊細な感性を通して、魅力的な台湾を醸し出す風景や風習を巧に表現しています。これを機に、日本の皆様が撮影された写真の場所、行事、台湾の原住民文化、そして男女同権の現状に興味をそそられましたら、ぜひ一度台湾に足を運んで、ご自身の肌で体感していただきたいと思います。台日間の文化交流が幅広く行われまして、必ず日本人と台湾人のお互いの理解と信頼につながると思います。今の東アジアの環境を見ますと、両国にとって互いの友好と協力が大変重要だと思えます。当弁事処は引き続き日本との友好親善を各分野から推進して行きますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。今年の写真展は台日文化交流の一環として開催されましたが、これは IFA 国際美術協会をはじめ関係各位のご協力のおかげであると感謝申し上げます。これからも引き続きよろしくお願いいたします。

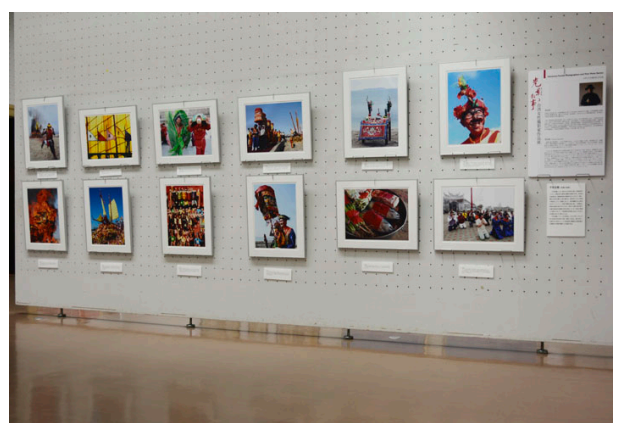


媽媽的時光計畫(母親の時の計画)
女史(女性の歴史)

汪 曉青 (右)
簡 扶育 (左)



光影 張 秀鳳



千秋宝艦(永遠の宝船)

張 詠捷

本年度の（国際美術協会）本展は、一言で言って成功であり、且つ発展出来たと言えましょう。以下二つの部分に分けてご説明したいと存じます。

まず第一は具体的な内容であります。

・絵画部門は出展者の減少もあり、出展作品の増加したと言うことはありません。佐藤先生の教室の方々の出展がかなり充実していたといえます。

・工芸部門では出展者の作品を増加しました。よって一つのブースの充実した展示が出来たと存じます。ただ殆んどの作品がステンドグラスの作品であり、この点が残念に思われます。

・書道部門は出品者も増加し、海外(台湾)からの出展も例年の様にあり、益々充実した展示が出来たように存じます。特に在阪の方のみならず東京はじめ全国より出展された事は誠に心強いものがあります。

・写真部門では写真とキャンバスフォトに分かれて出展され、特にキャンバスフォト作品が昨年比で増加したと存じます。

写真全体では本年は韓国からの出展がなく全体として数は少なくなりましたが本年は中華民国(台湾)の台北駐大阪経済文化弁事処のお世話で台湾の女性作家4人の作品が展示され、全体が充実した展示になった事と存じます。

この台湾からの展示に伴い、展覧会の初日には台北駐大阪経済文化弁事処の処長(総領事) 蔡 明耀氏他関係者のご来場され、親しく展示をご覧頂き又貴重なご意見を頂きました。書中をもってお礼申し上げます。次に第二点として各の出展内容に対してさらなる改善をして頂きたい事を申し上げたいと存じます。

・絵画部門であります。是非大型の作品を制作出展して頂きたいと存じます。大型(例えば100号)の絵画となりますとその材料も多くなりますし、その上制作の場所も必要となりますが是非挑戦して頂きたいと存じます。

・工芸部門では過去には陶器の作品も出展されていましたが、中々継続して出展して頂く事が難しくなってきました。来年度は意欲的に出展して頂きますようお願いしています。

・書道部門ですが中々書道は難しく、来場された方々が解り難いと言う点であります。要は日本人であれば墨で書を書くことは子供の頃より習い知っているのですが中々難しい様であります。「奇」に走るのではなく書の原点を忘れずに立ち向かってもらいたいと考えます。種種意見はあろうかと存じますが是非ご検討下さい。

・写真部門では来年度も台湾の台北駐大阪経済文化弁事処のご配意により、まとまった出展をお願いしております。よって国内の作品を是非充実したものにして頂ければと存じます。

各部門で制作、出展頂いている方々には日頃より大変ご努力されて作品を制作しておられる事と存じます。どの部門の作品もその作品にはその作者の内面のものをその作品の中で表現しようとされているものと考えます。制作者の内面がにじみ出て来る処に又見る人々も感激し、感銘を覚えるのではないのでしょうか。言葉で語る和歌・俳句・詩・小説とは異なりますが作品には総て物語りがあるのではと考えるのです。

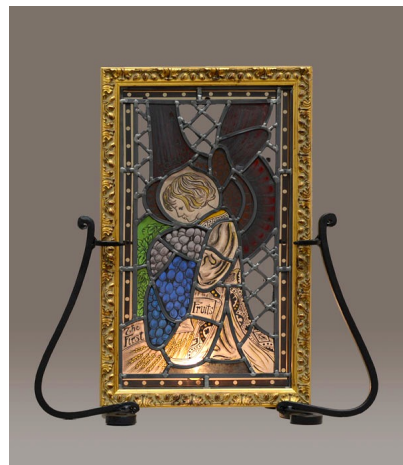
合評会を実施していますが自分の制作した作品の心を皆様にご説明する機会でもあろうかと存じます。



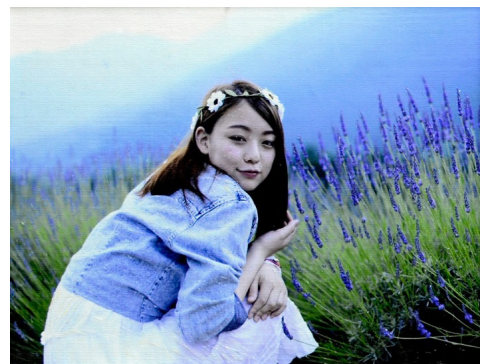
水詩伝 堀 正幸



鳥来月 岡山 正都



豊穰の祈り 吉ヶ江真貴子

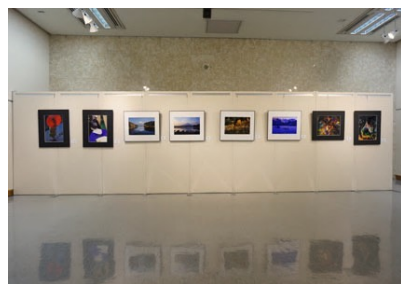
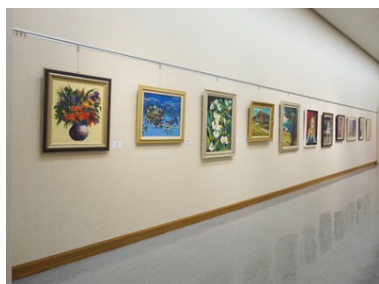
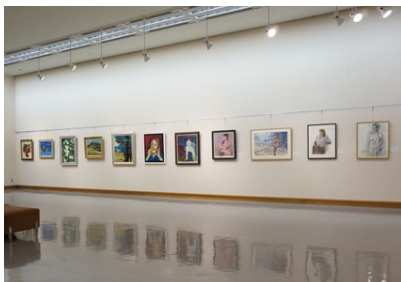
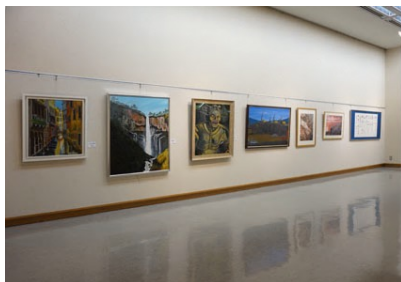


ラベンダーの妖精 (キャンバスフォト) 後藤 賢次

2015 IFA展は、大阪市立美術館・地下展覧会室にて8月25日(火)～8月30日(日)まで開催致しました。今年も約1200名の方々に観覧して頂いて無事終了しました。8月29日(土)の合評会は、例年どおり多数の出品者や観覧者の方々が参加され、各部門ごとに主に受賞作品の説明がされました。引き続き、授賞式・懇親会では受賞者の皆様の喜びの感想を聞くことができました。今年は東京都から2人、福島県から1人、受賞者が参加され皆様和気藹々と歓談されました。



2015 IFA春季展は、兵庫県立美術館分館「原田の森ギャラリー」にて4月15日(水)～4月19日(日)まで開催しました。今回で4回目となりましたが初めて1階の展示室がとれて昨年までとは少し違った雰囲気の展示となりました。ご来場下さいました方々に感謝申し上げます。



事務局からのお知らせ

2016 IFA 春季展

会場 兵庫県西宮市にあるギャラリー

会期 2016年4月19日(火)～4月24日(日)

2016 IFA 展

会場 大阪市立美術館 地下展覧会室

会期 2016年8月23日(火)～8月28日(日)

IFA 国際美術協会のホームページが、昨年より新規情報の掲載が止まっており皆様にはご不自由をおかけ致しておりますが、リニューアルに伴いまして、サイトアドレスも変更いたします。すでに過去のホームページは新しいアドレスに変更しております。10月末頃にリニューアル完了予定ですが、多少は遅れる事が生じる可能性もあります。少人数での作業によりましてご了承いただけます様お願い申し上げます。

新しい IFA ホームページアドレス <http://ifa-art.sakura.ne.jp>

*** 会員の皆様の予定は事前に事務局までお知らせ下さい ***

尚、事務局から各々への問い合わせは致しませんがご連絡いただければ IFA 国際美術協会ホームページに掲載致します。



IFA 国際美術協会・事務局

IFA 国際美術協会 〒553-0002 大阪市福島区鷺洲 4-3-23-1201 電話 Fax 06-6454-0590